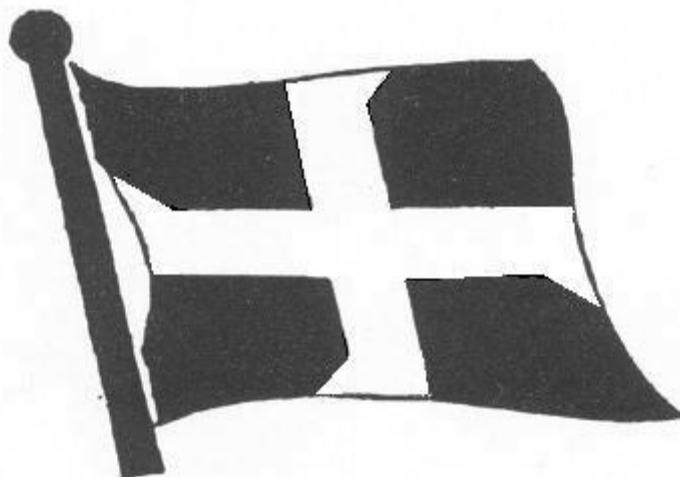


蒼穹 NEWS

NO.6

東大戦総括号

平成 29 年 10 月 9 日発行



～目次～

- 1 主将挨拶、女子主将挨拶、監督挨拶
- 2 東大戦結果
- 3 東大戦詳細
- 4 東大戦 OP 結果
- 5 応援にお越しいただいた OB・OG の方々
- 6 新主将挨拶
- 7 新幹部紹介

1. 主将挨拶・女子主将挨拶・監督挨拶

主将挨拶

去る9月30日に東京大学駒場グラウンドにて行われた東大戦において、4年ぶりの男女総合優勝を掴むことができました。男子は優勢とされていた事前予想をも上回る得点を重ね、最大目標に据えていた1935年の歴代最高得点226.5点を超える、228点での優勝、女子も総合優勝するための試合を進め、優勝杯を奪還しました。常識を壊す試合をしてほしい、という私の思いを、部員たちが体現してくれました。

男子は序盤から相手を圧倒し続け7種目でスコンク勝ち、負け越し種目は2つ、5位6位の数も3つずつと、出場した3番手までの選手全員が自分の仕事を果たしてくれました。女子も相手に柱となる選手が揃うなか、4位を取らない、負けない試合を見せてくれました。全てが上手くいったわけではありませんでしたが、それをカバーし合うチーム力で、応援やサポートの部員も含めたチーム全員で掴み取った勝利だと考えております。

この東大戦をもちまして、安藤(3)を新主将としたチームに代替わりいたします。今後さらに常識を壊して、強いチームを築き上げてくれるものと信じております。

最後になりましたが、主将としてのこの一年間、蒼穹会の方々には大変お世話になりました。当日も多くの蒼穹会の皆さまにお越しいただき、最後に笑顔を見ることができました。なかなか思うような結果を残せないシーズンでしたが、気にかけてくださり、本当に感謝しております。来年以降の後輩たちにも、変わらぬご支援、ご声援のほど、何卒よろしく願いいたします。

京都大学陸上競技部主将 浅野 智司

女子主将挨拶

9月30日に東京大学駒場グラウンドにて行われました東大戦において、女子は目標通り優勝することができました。本年の東大戦は、東大側に実力の抜けている選手が多く、厳しい接戦となることが予想されていましたが、最後まで諦めることなく全員で戦ったことが勝利に繋がりました。東大の強い選手の故障など、幸運な部分もありましたが、どちらのチームも人数が足りていないというぎりぎりな状況の中、怪我での棄権などなく全員で戦い、とるべき順位を死守してつかみ取ったこの結果は、女子チームにとってとても価値のあるものだと思います。今年度の関西インカレや七大戦では、男女ともチームとして納得のいく結果を残すことができませんでしたが、その悔しさを多少なりとも晴らすことのできた試合となりました。また、女子チームにとって対校戦での勝利は2年ぶりとなります。こ

の試合に向けて全員で気持ちを高め、刺激しあって練習したこと、選手・サポート・マネージャー全員で勝つことにひたすらこだわったことを通して、女子チームは大きく成長することができたと思っています。当日は多くの蒼穹会の方々にお越しいただき、ご声援を頂いたことが大きな力となりました。本当にありがとうございました。

この東大戦をもちまして、駅伝を控える長距離を除き、幹部が交代致します。今年度の女子チームには突出したエースはおりませんでした、「全員で戦うチーム」として、一人一人が努力を積み重ねて少しずつ実力を伸ばし大きく成長できた1年となりました。これから1年間チームを率いるのは、女子主将の横山(投擲)を中心とした3回生です。来年度は、七大戦や東大戦で目標を達成することはもちろん、関西の舞台でも勝負できる強いチームを目指して、より一層練習に励んでくれるものと確信しております。女子主将を務めさせていただいたこの1年間、蒼穹会の皆様には大変温かいご声援を頂きまして、本当に感謝しております。今後とも、現役部員への変わらぬご支援、ご声援のほど、よろしくお願い致します。

京都大学陸上競技部女子主将 岸本 絵理

監督挨拶

本年度の東大戦、男子は田島直人主将の代が出した史上最高得点を更新しての優勝、女子も最後までもつれる勝負を見事に勝ち切り優勝し、男女総合優勝を達成することができました。

男子は序盤から力の差を見せつける展開で、短距離 100、200、400m でスコルク、投擲 3 種目スコルクなど常に優位に試合を運び続け、ほぼすべての競技で事前ランキング通りもしくはそれを越える点数を取ることができました。この結果はひとえに、勝利を目指す部員たちの、相手よりも前へ、という強い気持ちが手繰り寄せた結果だと思えます。

女子も相手の主力選手が 1 人欠場したアドバンテージを活かし、選手は取るべき点数をしっかりと取り最終種目のリレーでも勝利して見事に昨年の雪辱を果たすことができました。ここ最近の対校戦では目標を達成することができずにいましたが、今回男女ともに目標を達成することができ、ようやく『勝利の喜び』というものを味わうことができました。来年の関西インカレはとてつもない戦いが予想されますし、七大戦も阪大に勝ち切る必要が出てきますが、この東大戦の経験がこれから先も前を向いて戦い抜く糧になっていくことを願っています。

当日は本当に多くの先輩方に応援にお越しいただきありがとうございました。今回は素晴らしい結果を残すことができましたが、この結果に甘えることなく日々精進していきたいと思います。今後とも、変わらぬご支援・ご声援のほど、よろしくお願い致します。

京都大学陸上競技部監督 紀平 直人

2. 東大戦結果

第90回東京大学・京都大学対校陸上競技大会

総合優勝 京都大学 (通算・東大 32 勝京大 58 勝)

総合得点

京都大学 228 点 (歴代最高得点) — 東京大学 144 点

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	京大の得点	東大の得点
100m (±0.0)	澤 薫 10.80	加藤 寿昂 10.94	庄司 湊 11.03	井上 昂 11.03	阿久津 大貴 11.07	聲高 健吾 11.11	15	6
200m (±0.0)	澤 薫 22.19	庄司 湊 22.19	安藤 滉一 22.22	聲高 健吾 22.50	後藤 裕瑛 23.00	河野 太郎 25.41	15	6
400m	浅井 良 49.33	小谷 哲 49.35	小原 幹太 49.79	河野 太郎 50.20	小嶋 健太郎 50.56	長久 将 50.98	15	6
800m	土屋 維智彦 1.55.43	木村 佑 1.55.98	小野 康介 1.56.68	友田 浩平 1.57.39	坂口 諒 1.57.40	早川 航平 1.57.86	14	7
1500m	近藤 秀一 4.01.33	尾崎 拓 4.04.65	清原 陸 4.04.82	土田 侑秀 4.05.17	妹背 雄太 4.06.28	長谷川 祐輝 4.14.76	12	9
5000m	近藤 秀一 14.23.65	柴田 裕平 14.27.15	尾崎 拓 15.01.58	原田 麟太郎 15.09.18	阿部 飛雄馬 15.20.27	栗山 一輝 15.44.23	12	9
5000mW	山西 利和 20.18.30	高野 圭太 21.43.63	大本 康平 22.21.87	堀江 駿 22.49.30	千菊 智也 23.09.26	棟重 賢治 DQ	15	5
110mH (-0.2)	田中 伸幸 15.09	小野 貴裕 15.33	松田 光陽 16.48	中島 盛喜 17.01	村井 輝 17.88	福島 理 18.15	12	9
400mH	兄井 啓太郎 54.29	広兼 浩二朗 54.68	五十嵐 隆皓 55.76	長谷川 隼 56.24	松田 光陽 56.53	本田 洋平 59.76	12	9
4x100mR	京都大 【加藤-安藤-庄司-澤】 41.31			東京大 【村井-阿久津-井上-聲高】 42.00			6	2
4x400mR	京都大 【小谷-浅井-安藤-小原】 3.16.88			東京大 【小嶋-兄井-長久-河野】 3.22.00			6	2
					トラック合計		134	70
走高跳	木下 秀明 1m95	竹田 風馬 1m95	五十嵐 隆皓 1m85	赤塚 智弥 1m75	平島 敬也 1m75	村井 輝 1m50	11	10
棒高跳	三宅 功朔 4m81 NGR	珍坂 涼太 4m20	平島 敬也 4m00	五十嵐 隆皓 3m60	戸部 潤一郎 3m40	寶田 雅治 3m40	12	9
走幅跳	木下 秀明 7m17(±0.0)	澤 薫 6m97(±0.0)	栗原 怜也 6m84(+0.3)	草野 恒平 6m67(±0.0)	本居 和弘 6m66(±0.0)	小野 貴裕 6m50(+0.7)	8	13
三段跳	木下 秀明 15m24(±0.0)NGR	三神 博志 15m08(+0.7)	伊東 悠希 14m53(+0.8)	吉川 樹 14m17(+0.8)	毛利 冬悟 13m87(-0.2)	平井 知史 13m32(+0.4)	12	9
砲丸投	佐竹 俊哉 10m97	加藤 輝仁 10m70	土井 雅人 10m44	金子 漢人 10m40	松井 そら 10m22	浅野 智司 9m80	6	15
円盤投	大橋 悟 40m01	平島 敬也 33m71	金子 漢人 33m67	土井 雅人 32m18	佐竹 俊哉 32m01	山之内 良太 30m84	15	6
やり投	中山 奎吾 60m81	浅野 智司 57m96	澤田 剛 50m41	加藤 輝仁 47m40	八木澤 光大 45m87	中村 優太 44m83	15	6
ハンマー投	大橋 悟 41m73	浅野 智司 38m29	三谷 圭 35m23	加藤 輝仁 27m78	土井 雅人 19m59	佐竹 俊哉 18m78	15	6
					フィールド合計		94	74
					総合得点		228	144

第16回東京大学・京都大学対校女子陸上競技大会

総合優勝 京都大学 (通算・東大5勝京大11勝)

総合得点

京都大学 35点 — 東京大学 31点

	1位	2位	3位	4位	京大の得点	東大の得点
100m (±0.0)	坪浦 諒子 13.07	川崎 仁美 13.08	小野 萌子 13.34	高石 涼香 13.99	5	5
400m	坪浦 諒子 58.11 NGR	小野 萌子 1.00.07	後藤 加奈 1.01.19	高石 涼香 1.01.69	5	5
800m	高石 涼香 2.16.42 NGR	川崎 仁美 2.27.91	岸本 絵理 2.29.22	荒木 玲 2.32.63	5	5
3000m	高石 涼香 10.39.29	藤原 ゆか 10.48.71	岡本 萌巴美 11.03.89	岸本 絵理 11.10.02	3	7
4x100mR	京都大 [川崎-小野-後藤-林]		東京大 [荒木-坪浦-堀越-高石]		4	2
	51.55		54.84			
			トラック合計		22	24
走幅跳	川崎 仁美 4m95(+0.7)	坪浦 諒子 4m65(±0.0)	林 玲美 4m64(±0.0)	藤原 ゆか 2m47(-0.6)	6	4
砲丸投	横山 優花 10m66	中野 水貴 8m82	内山 咲良 7m45	堀越 美菜 4m62	7	3
			フィールド合計		13	7
			総合得点		35	31

3. 東大戦詳細

<短距離>

100m (±0.0)

1位	澤 薫	(4)	10.80
2位	加藤 寿昂	(1)	10.94
3位	庄司 溪	(4)	11.03

男子 100m には、澤、庄司、加藤が出場した。
澤は調子が良くないながらも終盤に伸びを見せ
ランキング通り 1 着でゴールした。

加藤はスタートから勢いよくとび出し、リードを
保ったまま粘って 2 着となった。

庄司は前半まわりに遅れたが、ゴール直前で東大
勢をかわして 3 着に食い込んだ。結果は事前ラン
キングを覆すスコルクで、京大に勢いをつけた。
(芦田)

200m (±0.0)

1位	澤 薫	(4)	21.99
2位	庄司 溪	(4)	22.19
3位	安藤 滉一	(3)	22.27

スタートダッシュは、6 人とも反応よくほぼ同
時に飛び出す。しかし次の瞬間ドロップアウトし
たのは 6 レーンの河野。そんな河野を横目に、そ
のスピード惑わされず、他の選手に比べて最初の
100m で攻めたのは 5 レーンの安藤。スピードの
違いは明らかだった。2 レーンの後藤もなかなか
とばしていたが、1 レーンの庄司、3 レーンの澤
は、落ち着いた走りで良い位置につける。ラスト
100m に差し掛かると、前半で体力を使い切った
か、後藤が失速、4 レーン聲高は粘るが、もはや
京大 3 人の優勝争いに。澤が持ち前のスピードで
スパートをかける中、庄司も負けずに 2 人を追

う。ラスト 50m、澤と安藤が並び、澤が抜き 1
着。安藤も粘るが、庄司が意地を見せ、安藤を抜
いて 2 着。安藤が 3 着。京大 3 人誰が勝ってもお
かしくない接戦だった。京大 3 人の圧倒的実力で
のスコルク勝ち、チームを勝利に導く素晴らしい
レースだった。(安藤百)

400m

1位	浅井 良	(1)	49.33
2位	小谷 哲	(2)	49.35
3位	小原 幹太	(2)	49.79

この種目には、小谷、小原、浅井が出場した。
この種目の目標はスコルクであった。

スタートと同時に小谷が攻める走りを見せ、ト
ップでレースが進む。ラストの直線で、ペースを
あげてきた浅井が小谷にせまり、ほぼ同時にゴールし、0.02 秒差で浅井が 1 位、小谷が 2 位。小原もラストの直線で追い上げて、3 位でゴール。

終始京大が圧倒していて、安心して見るこ
うなレースだった。目標であるスコルクを達成し、チームに
勢いをつけた。(久田)



先輩である小谷、小原を見事退けて優勝した浅井。これからも互いに切磋琢磨しあうことでより強くなるだろう。

4×100mR

1位 加藤—安藤—庄司—澤 41.31

先に行われた100mでスコルクした加藤、庄司、澤の3人を含む、七大戦において大会記録で優勝した時と同じオーダーでの出場であった。

まず1走の加藤は東大とほぼ同じペースで走り、2走へのバトンパスでやや先行。そして、2走の安藤で東大に差をつけ3走の庄司へバトンパス。その後その差を縮めることなく4走の澤にバトンが渡り、東大との差をさらに広げ1着でフィニッシュした。(平野)

4×400mR

1位 小谷—浅井—安藤—小原 3.16.88

4×400mRには小谷、浅井、安藤、小原が出場した。

1走を走った小谷はスタートと同時に飛び出し、スピードを落とすことなく200mを通過しその後も東大の少し前を走り1着で2走の浅井にバトンを繋いだ。

2走の浅井も200m通過後も失速することなく、さらに東大を引き離し3走の安藤にバトンを繋いだ。

3走を走った安藤はラスト苦しい場面もあったが、順位を覆されることなく1着で4走の小原にバトンを繋いだ。

4走を走った小原は序盤から飛ばしたが失速することなく東大を引き離し1着でゴールした。

(上島)

女子 100m (±0.0)

2位 川崎 仁美 (4) 13.08 PB

3位 小野 萌子 (3) 13.34

女子100mには、川崎、小野が出場した。

川崎は終盤まで東大の坪浦と競るかたちとなったが、惜しくも2着となった。小野は中盤に前の2人に離されたが、3位を守ってゴールした。

結果は、東大の内山が正補交代したこともあるが、2、3位をしっかりと守り、この後の競技につなげた。(芦田)

女子 400m

2位 小野 萌子 (3) 1.00.07

3位 後藤 加奈 (2) 1.01.19

東大から58秒台のベストを持つ坪浦が出場しており、2位、3位を死守することが求められるレースであった。

序盤から坪浦が前に出る中、小野も序盤から東

大の2番手、高石に迫る積極的なレースを見せ、300m地点までは高石にリードを許したものの、最後に伸びを見せ3位を勝ち取った。3、4位だったランキングを覆し、この種目を同点に抑え込むことができた。(前田)

女子 4×100mR

1位 川崎-小野-後藤-林 51.55

1走の川崎は抜群のスタートを切り、東大をかわして大きく差を広げ2走の小野にバトンパス。小野がその差を維持しスムーズなバトンパスで3走の後藤へ。後藤がさらに東大との差を広げ、4走の林も危なげない走りで、エース内山を欠く東大に3秒以上の差をつけて1着でゴールした。

(花房)

<ハードル>

110mH (-0.2)

1位 田中 伸幸 (4) 15.09 PB
2位 小野 貴裕 (2) 15.33
6位 福島 理 (3) 18.15

男子 110mHには田中、福島、小野が出場した。

田中は序盤からトップに立つとそのままの勢いで先頭でゴールし、見事、自己ベストでの二連覇を達成した。

小野も田中に食らいつき、京大勢のワンツーフイニッシュ。

福島は中盤まで3位につけるも、最終ハードルで隣の東大の選手と接触、転倒し、6着におわった。スコンクが期待されていただけに悔しさの残る結果となった。(岡本郁)



去年に引き続き優勝した田中。シーズンの前半は怪我に苦しんだが、最後の東大戦を有終の美で飾った。

400mH

2位 広兼 浩二郎(4) 54.68
3位 五十嵐 隆浩(3) 55.76
4位 長谷川 隼 (1) 56.24

東大戦最初の競技、男子 400mHには広兼、五十嵐、長谷川の3人が出場した。

広兼は前半から飛ばして東大の一番手であり高校同期でもある兄井(4)と競る走りをするも、終盤に離されてしまった。しかしながら、2位の順位は死守した。

五十嵐は走高跳、棒高跳を控えての出場であったが、先頭の広兼、兄井を追う冷静な走りで徐々に追い上げ、3位を獲得した。

長谷川は前半 200mを練習よりも早いペースで回り、後半は苦しい走りとなったものの、粘りで4着に食い込んだ。3人の活躍により、京大には初戦から追い風が吹き始めた。(数多)

<中距離>

800m

1位	土屋 維智彦	(2)	1.55.43
2位	木村 佑	(1)	1.55.98
4位	友田 浩平	(4)	1.57.39

スタートから土屋が先頭に立ち、木村がその後ろ、友田は集団の後ろにつくという展開であった。ペースが遅かったわけではないものの、残り200mになっても集団は大きくばらけることなく、最後のスパート勝負となった。土屋、木村は力の差を見せつけ終始順位を変えず1位、2位でゴール。友田は残り200m地点までは一番後ろにいたものの、キレのあるスパートで順位を上げていき、100分の1秒差で東大の2番手に競り勝って4位でゴールした。昨年度スコンクされた悔しさを晴らす、すばらしいレースとなった。(前田)



この夏に地元で練習を積み一皮むけた土屋。去年の雪辱を果たすことができた。

1500m

2位	尾崎 拓	(4)	4.04.65
3位	清原 陸	(1)	4.04.82
4位	土田 侑秀	(3)	4.05.17

1500mには、尾崎、清原、土田が出場した。

レースは東大の近藤が予想通りにスタートから前に出て終始独走し、残りの5人で2位争いをするという展開になった。清原が集団を引っ張りそれに尾崎が続き、土田が東大の選手と激しく競り合いながら、ラスト300mまで行き、ラスト300mから清原がスパートをかけた。それに尾崎と東大の選手が続き、最後の直線で尾崎が清原をかわし2位、清原は3位、土田は少し離れたように見えたが、最後の直線でスパートをかけ、東大の選手を抜き4位でゴールをした。(宇佐美)

女子 800m

2位	川崎 仁美	(4)	2.27.91
3位	岸本 絵理	(4)	2.29.22

この種目には、岸本、川崎が出場した。この種目の東大選手高石は実力が圧倒的であったので、2、3位を確実にとり、同点に持ちこみたい種目であった。

200mほどから高石は独走となり、岸本と川崎は2人で、2、3位のグループをつくり、4位を離す展開となった。そして、そのまま追いつかれず、川崎が2位、岸本が3位でゴール。高石にとっては、大分楽なレースとなってしまったが、岸本も3000mに向けて、温存することができた。

(久田)

<長距離>

5000m

2位 柴田 裕平 (4) 14.27.15 PB

3位 尾崎 拓 (4) 15.01.58

4位 原田 麟太郎 (2) 15.09.18 CB

男子 5000mには柴田、尾崎、原田が出場した。

スタートから、柴田と東大の近藤が前に出て、一騎打ちの形となった。尾崎はつけないと判断し、単独走で前をうかがい、原田は東大二人と4位集団を形成した。ラスト 1000mで集団から原田がぬけだし、単独4位となり、そのまま4着に入った。柴田は東大の近藤にラストで競り負けるものの、ベストを更新する走りを見せ、尾崎も終始単独での走りとなったが、3位を確保し、4回生の意地を見せつけた。(津吉)

女子 3000m

3位 岡本 萌巴美(4) 11.03.89

4位 岸本 絵里 (4) 11.10.02

女子 3000mには、岡本、岸本が出場した。序盤から岡本が積極的に引っ張り、2番手に岸本が付き、東大戦女子総合優勝に向けて熱い走りを見せる。しかし、2000mを過ぎて東大の藤原(3)が前に出ると、岡本と岸本は付こうとするものの付く事が出来ず、大差を付けられ悔しい結果となった。(飯田)

<競歩>

5000mW

1位 山西 利和 (4) 20.18.30

2位 高野 圭太 (3) 21.43.63

3位 大本 康平 (4) 22.21.87

男子 5000mWでは、スタートから京大・山西と高野が飛び出し、京大・大本と東大・堀江、千菊、棟重が後方で3位集団を形成する展開となった。しかし、400m付近で棟重が3位集団から遅れ始め、山西、高野から少しあいて大本、千菊、堀江の集団があり、その後方を棟重が歩く、という状況が長く続いた。先頭集団は、1600m付近で山西が高野を引き離して独走態勢に入ったが、後方は依然として先述の状況が続いた。後方に動きがでたのは3000m付近であった。まず、2600m付近で最後方を歩く棟重が失格となり、更に3000m辺りで3位集団を形成する大本から千菊と堀江が遅れた。3600m付近では千菊から堀江が遅れ、先頭から、山西、高野、大本、千菊、堀江の順にそれぞれ単独での歩行となった。このままレースは進み、優勝は山西、2位に高野、3位大本、4位千菊、5位堀江となった。(堀葉)

<跳躍種目>

走高跳

2位 竹田 風馬 (4) 1m95

3位 五十嵐 隆皓 (3) 1m85

5位 平島 敬也 (2) 1m75

男子走高跳には竹田、五十嵐、平島の3名が出場した。

五十嵐は150、平島は170、竹田は185から競技を始めた。五十嵐は400mHが終わった直後の試合で両足に負担がかかっていた中、180までを難なくクリアし自己ベストタイの185を3回目で成功した。次の190でクリアすることはできなかったが、3位を勝ち取った。

平島は170を2回目でクリアするも175から惜しい跳躍が続き、180で失敗に終わり5位。

竹田は185、190を1回目と2回目で難なくクリアしたが、195で苦戦し3回目でクリア。東大の木

下も記録は 195 であったが試技回数により 1 位。竹田は惜しくも 2 位となった。この種目で京大は 11 点を獲得した。(中野克)

棒高跳

- 2 位 珍坂 涼太 (4) 4m20
- 3 位 平島 敬也 (2) 4m00
- 4 位 五十嵐 隆皓(3) 3m60

男子棒高跳には珍坂、平島、五十嵐が出場した。

五十嵐は 3m20、平島と珍坂は 3m80 からの競技開始となった。平島、五十嵐はこの日 3 種目目であり疲労も見えたが、混成選手として安定した跳躍を見せ、それぞれ PB タイとなる記録を残した。東大の 2 番手が 3m80 を失敗した隙をついて五十嵐は 4 位、平島は 3 位をもぎ取った。珍坂も最後の東大戦にふさわしい跳躍を見せ、4m20 を 2 回目で成功し 2 位となった。(横山寛)

走幅跳

- 2 位 澤 薫 (4) 6m97(±0.0) PB
- 5 位 本居 和弘 (2) 6m66(±0.0)
- 6 位 小野 貴裕 (2) 6m50(+0.7)

男子走幅跳には澤、本居、小野が出場した。

100m 決勝の直後に行われた試合であったので、澤は 1 回目の試技をパス。体力を回復させた後、試技を重ねるごとに調子を上げ、5 回目で自身のベスト記録となる 6m97 を跳んだ。澤は 7m ジャンプを狙っており、踏切板を踏まないで 6m70 を超す記録も出したものの、自身のポテンシャルを十分に生かせたとは言えない結果であった。

本居は腰に怪我をした状態で試合に臨んだ。怪我による練習不足からか、試合前半の助走は硬

く、いい記録は生まれなかったが、それでも後半にかけて助走を修正し、最後となる 6 回目で 6m66 を跳んだ。自身のベスト記録には及ばなかったものの、修正能力の高さは見事と言える。

小野は、全体的にスピードを生かせない低い跳躍が目立った。小野は走幅跳で調子を落としているが、今回の大会で払拭することはできなかった。しかし小野は 100m や 110m のトラック競技でベストを更新しており、今後のスピードを生かした跳躍に期待したい。

男子走幅跳は、全体の得点が東大のそれを上回った競技が多数を占めたこの度の東大戦において、相手が上回った数少ない競技のうちの一つだった。今後の対校戦のため、全体の競技力向上の必要性を感じさせられた試合であったと言える(増尾)

三段跳

- 2 位 三神 惇志 (2) 15m08 PB
- 3 位 伊東 悠希 (3) 14m53 PB
- 4 位 吉川 樹 (1) 14m17 PB

男子三段跳には伊東、三神、吉川の 3 名が出場。

一回生の吉川は走高跳の選手であり、普段の練習での立ち五段の記録から良い記録が期待され、1, 2 跳躍目は踏切が合わず踏切板を踏まない跳躍だったが、13m 後半をマークしており、踏切の合った 3 跳躍目で 14m17 をマークし 4 位に。

3 位の伊東は 2 跳躍目にて 14m32 のベストをマークし、ラスト 6 跳躍目でさらに 14m53 とベストを伸ばした。

そして、三神は 1 跳躍目から 14m64 のベストをマークし、2 跳躍目に目標としていた 15m 台である 15m03 をマーク。また、3 跳躍目にてさらに 15m08 をマークと、ベストを伸ばした。こ

の後東大の木下に 15m24 の大会記録をマークされ、優勝を許してしまいましたが、3人ともこれから非常に期待できる跳躍であった。(平野)



ついに 15m ジャンパーとなった三神。関西インカレでの得点が見えてきた。

女子走幅跳

- 1位 川崎 仁美(4) 4m95(-0.6) PB
3位 林 玲美(3) 4m64(±0.0)

女子走幅跳決勝には川崎、林が出場した。女子走幅跳は男子と同じく 100m の決勝の直後に行われたので、多種目出場の川崎、林には正念場となった。

川崎は初出場の走幅跳で慣れないながらもなんとか助走を修正し、見事に 4m95 を跳んで優勝した。実力が拮抗した対校戦において、京大に 4 点をもたらした意義は大きい。

林は走高跳との練習の兼ね合いからあまり走幅跳の練習ができない状況にあるものの、川崎と共に双青戦の直前に練習を重ねた。しかし本番は調子が上がらず、助走が合わずに前半は思うような記録が出なかった。しかし後半にかけて助走スピードが上がり、6 回目に 4m64 を跳んで会場を盛

り上げた。結果は東大の 2 位の選手に 1 cm 届かなかったものの、両者合計で 6 点を獲得し、貴重な勝ち越し種目となった。

走幅跳は男女とも盛り上がった雰囲気で行うことができたが、それは対校選手だけでなく OP 種目に出場した選手が一丸となって競技に臨んだからこそであった。彼らが選手を陰で支えたといっても過言ではない。(増尾)



跳躍は専門外ながらも見事優勝した川崎。この東大戦では多種目で活躍し、優勝に大きく貢献した。

< 投擲種目 >

砲丸投

- 4位 金子 湊人 (4) 10m40 PB
5位 松井 そら (2) 10m22 PB
6位 浅野 智司 (4) 9m80 PB

事前ランキングで東京大学に 1、2、3 位を占められ、攻めの勝負にかけた京都大学。

松井(2)は 1 投目から PB となる 9m98 を記録、その後も 9m 台後半を投げ、6 投目では 10m22 を記録し、さらに PB を更新した。

浅野(4)は1投目でPBの9m80をマーク、6投目でも9m78を投げる好投を見せた。

金子(4)は初めから10m近くを投げ、4投目ではPBの10m40を記録し、一度3位となったが最終投擲で抜かされる惜しい結果となった。(藤田)

円盤投

- 1位 大橋 悟 (2) 40m01
- 2位 平島 敬也 (2) 33m71 PB
- 3位 金子 溪人 (4) 33m67

円盤投には金子、平島、大橋の3名が出場した。

金子は1投目に32m65を投げ2投目はファールとなり3投目で32m25を投げ、4、5投目もファールとなり調子が上がらなかったが、6投目で調子を上げ33m67を投げ3位となった。

平島は1投目ファールで2投目に31m70を投げた。3投目はファールとなったが次の4投目で33m71を投げ自己ベストを更新した。5、6投目はファールとなったが2位を獲得した。

大橋は1投目ファール2投目39m01を投げ、3、4投目ファールと調子が上がらずにいたが、5投目で40m01を投げ1位を獲得した。円盤投は大橋 平島 金子の順で1、2、3位を取り京都大学の勝利に貢献した。(上島)

ハンマー投 (非公認)

- 1位 大橋 悟 (2) 41m73
- 2位 浅野 智司 (4) 38m29
- 3位 三谷 圭 (2) 35m23

今大会第一種目となった男子ハンマー投げには浅野、大橋、三谷が出場した。

三谷は一投目にして35mを越え自己新を記録。

大橋は三投目42mに迫る投擲で他選手にプレッシャーを与え、そのまま優勝をきめた。浅野は最終の40mを越える投擲が惜しくもファールとなり2位となった。

こうして浅野主将率いる男子ハンマー投は宣言どおりスコルクを達成し総合優勝への流れを作った。(梶原)

やり投

- 1位 中山奎吾 (3) 60m81 PB 蒼穹新
- 2位 浅野智司 (4) 57m96 PB
- 3位 澤田 剛 (1) 50m41 PB

男子やり投には浅野、中山、澤田が出場した。

浅野はハンマー投、砲丸投からの連戦で肘の痛み苦しむ中、5回目に57m96の大投擲を見せ自己新記録をマークし2位。

中山は終始50mを超える投擲をし、3回目には蒼穹新となる60m81をマーク。関カレA標を切り1位を勝ち取った。

澤田は初めての対校戦の中、1投目から49m64を出し2投目で50mを突破した。この記録で東大勢を突き放し3位。試合は終始京大が優勢で3位と4位で3m位差をつけスコルクを達成した。(中野克)



23年ぶりに蒼穹記録を更新した中山。さらなる記録更新が期待される。

女子砲丸投

- 1位 横山 優花 (3) 10m66 PB **蒼穹新**
 2位 中野 水貴 (1) 8m82 PB

京都大学は事前ランキングで上位2位を独占し、自己の記録を更新していく勝負となった。

中野(1)は1投目にPBとなる8m51を投げ、2投目はさらに8m82を記録、PBを塗り替えた。

横山(3)は1～3投目で10m台を記録し、以降さらに調子が上がり、6投目ではPBとなる10m66を投げ、優勝した。(藤田)

4. 東大戦 OP 結果

男子

▼200m

岡本 和也	23.07	+0.2
南井 航太	23.52	+0.2
新村 航輝	23.56	±0.0

水野 廉也	23.64	-0.4
坂口 雄太	23.93	-0.4
吉川 広祐	24.27	-0.4
平田 泰行	24.55	+0.2
長崎 裕貴	24.79	-0.4
小林 直礼	24.88	±0.0

▼800m

岡野 颯斗	1.58.76
田中 達也	1.59.71
宮崎 奨之	2.01.49
平中 章貴	2.03.49
岡本 郁翔	2.03.67
宇佐 美岳良	2.10.02
飯田 駿介	2.20.42

▼5000m

稲垣 達也	15.10.33
-------	----------

▼5000mW

亀田孝太郎	22.11.07	PB
田中 雄也	22.38.59	

▼走幅跳

南井 航太	6m59	+1.1	PB
-------	------	------	----

▼砲丸投

石田 真也	9m38	
庄司 真	8m49	PB
林 大祐	8m27	
渡辺 祥	7m50	

女子

▼200m

菅野 紗希	28.35	±0.0
宮崎 伶菜	30.33	±0.0

▼走幅跳

広川 知佳	5m25	±0.0
菅野 紗希	4m43	±0.0
宮崎 伶菜	4m30	±0.0

▼砲丸投

福井 優輝	8m42
-------	------

5. 応援にお越しいただいた

OB・OGの方々

御名前	御卒業年度
相澤滉一様	賛助会員
伊藤久雄様	S 3 4
南浦基二様	S 3 4
木平勇吉様	S 3 5
三島宏夫様	S 3 5
杉村一憲様	S 3 6
園山昌市様	S 3 6
高林藤樹様	S 3 6
佐藤松範様	S 3 7
市川哲様	S 3 8
富島紘一様	S 3 9
出納正彬様	S 4 0
井街宏様	S 4 1
鯉谷忠夫様	S 4 1
河合洋一様	S 4 1
藤原忠義様	S 4 1
森本正幸様	S 4 1
井山昌造様	S 4 2
尾本衛様	S 4 2
川尻和廣様	S 4 2
吉田基様	S 4 2
松嶋宏様	S 4 3
山本和賢様	S 4 3
織本聡様	S 4 4
勝村弘也様	S 4 4
坪倉重明様	S 4 4
松村正則様	S 4 6
間瀬一郎様	S 4 7
城野豊様	S 4 8
高木宣雄様	S 4 8

中村茂夫様	S 4 8
池本忠司様	S 4 9
池田康博様	S 5 1
桂総一郎様	S 5 1
増田剛志様	S 5 2
柳沢一正様	S 5 2
真野勝文様	S 5 3
重村充男様	S 5 3
三好稔彦様	S 5 4
堀内圭介様	S 5 5
清水智志様	S 5 7
弥永徳弘様	S 6 0
大和田正勝様	H 2
置塩正剛様	H 6
宇部達様	H 1 8
大川亮様	H 2 4
眞武俊輔様	H 2 5
巽浩之様	H 2 6
西村優汰様	H 2 6
牧川真央様	H 2 6
横山高広様	H 2 6
大川真奈様	H 2 7
中井一宏様	H 2 7
森田悠也様	H 2 7
猪原章様	H 2 8
梶原諒一様	H 2 8
平井健太郎様	H 2 8
山岡隆央様	H 2 8
金澤和寿美様	H 2 9
森田大地様	H 2 9

6.新主将挨拶

この度新たに主将を務めさせていただくことになりました安藤滉一です。

今年度を振り返ってみますと、関西インカレ、伊勢予選、七大戦においてはチームの目標を達成することはできませんでした。一方で、東大戦では男子は歴代最高得点での総合優勝、女子は厳しい接戦を制しての総合優勝と、男女ともに素晴らしい結果を残すことができました。この歴史的勝利の喜びを糧に秋のトラックレースや駅伝で好成績を残し、来シーズンに向けて新チームとしての勢いをつけたいと思っております。来年度は実力のある4年生、院生が抜けられますが、一人でも多くの部員が関西インカレ、七大戦、東大戦、そして全国大会で活躍できるよう部員一同精進を重ねていく所存です。

蒼穹会の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご声援のほどをよろしくお願い致します。

京都大学陸上競技部新主将 安藤 滉一

7.新幹部紹介

主将	安藤 滉一
女子主将	横山 優花
副将、競歩パートチーフ	高野 圭太
副将	中山 奎吾

短距離パートチーフ	岡本 和也
ハードルパートチーフ	福島 理
中距離パートチーフ	田中 達也
長距離パートチーフ	長谷川 大智
フィールドパートチーフ	伊東 悠希

主務（学連担当）	渡邊 康介
主務（渉外担当）	宮崎 奨之
主務（体育会担当）	谷口 博紀



蒼穹ニュース 平成29年度 第6号
平成29年10月9日発行

発行所：京都大学体育会陸上競技部
編集者：潮崎羽・水野廉也・三谷圭（副務）
特別協力：秋本啓太・三田村侑紀・山内美佳（学連員）
大前晃一・糠谷充孝（記録係）・土田侑秀（HP 係）
写真担当：土屋維智彦・広川知佳・福井優輝

陸上競技部 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/>
陸上競技部記録 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/kiroku/index.htm>
関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>
メールアドレス onyourmarks.136@gmail.com（水野）